

平成25年度第1回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

- | | | | |
|---|-----|----------------------------|-----------------------------|
| 1 | 日時 | 平成25年6月6日(木) 午後3時30分～4時30分 | |
| 2 | 場所 | 蒲郡市役所 303会議室 | |
| 3 | 出席者 | 委員 | 愛知工科大学自動車短期大学自動車工業学科教授 橋本孝明 |
| | | 委員 | 名城大学理工学部建設システム工学科教授 松本幸正 |
| | | 委員 | 愛知運輸支局 小林博之 |
| | | 委員 | 愛知県交通対策課 古橋昭 |
| | | | (代理 尾崎弘幸) |
| | | 委員 | 総代連合会会長 大場克海 |
| | | 委員 | 総代連合会副会長 草次英夫 |
| | | 委員 | 総代連合会副会長 天野忠則 |
| | | 委員 | 蒲郡市身体障害者福祉協会 原田ます子 |
| | | 委員 | 蒲郡市老人クラブ連合会 渡辺ヤエ子 |
| | | 委員 | 蒲郡市社会福祉協議会 金原久雄 |
| | | 委員 | 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 織田康代 |
| | | 委員 | 蒲郡商工会議所 小池高弘 |
| | | | (代理 加藤貢) |
| | | 委員 | 蒲郡市観光協会 市川行雄 (欠席) |
| | | 委員 | 名鉄バス東部株式会社 富田尚之 |
| | | 委員 | 豊鉄タクシー株式会社 清水康朗 |
| | | 委員 | 株式会社かね一自動車 石田寛 |
| | | 委員 | 公益社団法人愛知県バス協会 長崎三千男 |
| | | 委員 | 愛知県タクシー協会 山田透 |
| | | 委員 | 愛知県交通運輸産業労働組合協議会 小林宏 |
| | | | (代理 後藤泰之) |
| | | 委員 | 愛知県蒲郡警察署 坂田政利 |
| | | 委員 | 東三河建設事務所 大谷光司 |
| | | 委員 | 蒲郡市長 稲葉正吉 |
| | | 委員 | 蒲郡市総務部長 井澤勝明 |
| | | 委員 | 蒲郡市企画部長 大原義文 |
| | | 委員 | 蒲郡市市民福祉部長 鈴木富次 |
| | | 委員 | 蒲郡市建設部長 安藤克佳 |
| | | 委員 | 蒲郡市産業環境部長 荒島祐子 |
| | | 委員 | 蒲郡市都市開発部長 壁谷仁輔 |
| | | 事務局 | 蒲郡市安全安心課長 永井幸久 |
| | | | 蒲郡市安全安心課長補佐 高橋信夫 |
| | | | 蒲郡市安全安心課主事 足立昌平 |

4 傍聴人 6人

5 議題

(1) あいさつ

(2) 委員紹介及び役員の指名について・・・【資料1】

(3) 歳出予算流用の報告について・・・【資料2】

(4) 寿楽荘ふれあい入浴送迎バス市民病院経由試験運行結果について・・・【資料3】

6 協議事項

(1) 平成24年度蒲郡市地域公共交通会議決算について・・・【資料4】

(2) 蒲郡市地域公共交通調査事業内容(案)について・・・【資料5】

(3) 夏休み小学生50円バスの実施について・・・【資料6】

7 その他

8 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が27名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第7条第2項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており傍聴人がいること及びオブザーバーとして名古屋鉄道株式会社に参加していただいていることが事務局より報告された。

(2) 議題

ア あいさつ

- ・ 蒲郡市長、稲葉正吉より本年度については、第四次総合計画にあげられている「子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系の確立」、「地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系の形成」を目指し、地域のニーズにあった持続可能な交通サービスの提供と、鉄道、路線バス、タクシーがそれぞれの特性を活かしたバランスのとれた公共交通体系の確立を目標とした地域公共交通総合連携計画の策定を進めていきたいと考えている。市長就任以来、「活気ある蒲郡」「元気のある蒲郡」を目指して市政に取り組んできたが、その実現に向けて、今年のテーマは、「健康づくり」をあげさせていただいている。市民の皆さんが健康について考え、取り組んでいただけるような施策を推進してまいりたいと考えているところである。そして、今後も高齢化が進んでいく中で、この「健康づくり」を推進するためには、誰もが気軽に外出できる公共交通体系の確立が不可欠であると考えている。そのためにも、今年度、皆様方とともに蒲郡市地域公共交通総合連携計画を策定していきたいとのあいさつがあった。

イ 委員紹介及び役員の指名について

- ・ 事務局により委員の紹介が行われた。
- ・ 蒲郡市地域公共交通会議設置要綱により、蒲郡市長が会長に就任した。
- ・ 会長より副会長として井澤勝明委員、座長に橋本孝明委員、監事に大場克海委員と大原義文委員を指名したことの報告。また、議長については蒲郡市地域公共交通会議

設置要綱第6条第3項に基づき座長である橋本委員を指名し、議事を進行。

〔質 疑〕

・なし

ウ 歳出予算流用の報告について

- ・ 事務局より、資料2を用いて説明が行われた。
- ・ 蒲郡市地域公共交通会議財務規程第5条第2項に従い、地域公共交通調査事業の受託者選定に伴い、発生した郵送料について2款事業費に2項事務費を新設し、1項事業費より流用を行ったことについて報告された。

〔質 疑〕

・なし

エ 寿楽荘ふれあい入浴送迎バス市民病院経由試験運行結果について

- ・ 事務局より、資料3を用いて説明が行われた。
- ・ 結果については市民病院で降りる方はいなかった。しかし、1日のみの運行であり周知不足等も考えられる。再度、試験運行をするかどうかについては今後、地域公共交通会議の中で協議を行いたい。今年度実施する地域公共交通調査事業の中でも調査したいとの報告があった。

〔質 疑〕

・なし

- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

(3) 協議事項

ア 平成24年度蒲郡市地域公共交通会議決算について

- ・ 事務局より、資料4に基づいて平成24年度蒲郡市地域公共交通会議決算について説明並びに、監事代表1名から監査報告が行われ、全会一致で可決された。

〔質 疑〕

・なし

イ 蒲郡市地域公共交通調査事業内容(案)について

- ・ 事務局より、蒲郡市地域公共交通調査事業内容(案)について、資料5に基づいて説明が行われ、
今回出た意見及び一週間意見を募集し、まずアンケート内容について内容を修正し、書面協議にて決議を行うことが全会一致で可決された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 昨年、蒲郡市において公共交通基礎調査を実施されているが、この基礎調査と今年度実施する公共交通調査事業との整合性をどのようにとっていくのか。基礎調査の中で、課題などもあげられていたが、そういった部分と今回細かく実態調査を進める中でどのような関連性を持たせてやっていくのか。

グループヒアリング調査について、交通事業者ヒアリングがグループヒアリング調査とバス利用等実態調査の両方にあるが、この違いは何か。

(事務局)

- ・ 昨年度実施した公共基礎調査と今回の調査の整合性については、昨年行いました基礎調査はこれまで蒲郡市実施してきた、無料バスの日の実績、ふれあい入浴送迎バスの実態、平成22から実施している高齢者割引タクシーチケットの調査になる。タクシーチケットについては、チケットに書いてある情報からの整理しか出来ないため、利用の時間帯などについては不足している。また、タクシーチケットは70歳以上の方に配布しているため、すべての年代の方の移動実態についても把握出来ない。また、潜在的に市民の方がどのように考えているかということもわからないため、今回アンケート調査やグループヒアリング調査等を実施していくものになる。

交通事業者ヒアリング調査については、1回の調査であるが、内容的にバス利用実態等調査とグループヒアリング調査の2つにかかっているということになる。利用実態等調査については、現状の利用実態等、今後の見通しなどをヒアリングするもの、グループヒアリング調査としての意味合いについては、事例調査での事例などを参考にビジネスプランなどを提示しながら今後の状況について意見などを伺っていくものを想定している。

(委員)

- ・ 事例調査については、あくまでも事例であり、蒲郡市の地域にあっているかどうかはなかなか難しいものがある。そのため、事例からビジネスプランの話に繋げていくことは慎重にされたほうがいい。事例として参考にすべきところは参考にし、事例にこだわる必要は無く、蒲郡市の地域にあうものを見出していくかという部分にとどめられた方がよいのではないかと。あくまでも、地域の方がどういった交通を望んでいるのか、何処に行きたいのかというようなフォローを明確にし、これに対する方法を考える方法で進められていかれたほうがいいのではないかと。

(委員)

- ・ 市民アンケートの内容について、調査方法で、郵送配布・郵送回収、括弧書きで自治会等の回覧を通じた配布・回収も検討とあるが、調査の方法は決まってなく、これから検討するというのか。それとも郵送でやるということか。

(事務局)

- ・ 配布数が多くなる可能性が考えられたため、その場合は総代等を通じての地区への配布も考えられるということで記載したが、3,000通の配布ということで考えているため郵送で実施したいと考えている。

(委員)

- ・ 住基台帳から無作為に抽出だと自治会の組織の中でも配布しきれない心配があった。

(委員)

- ・ これから地域公共交通を築いていこうとするときに、目的を明確にする、何のために走らせるのかということと、地域の方々にいかに協力をいただけるかの2点が何よりも欠かせないと思っている。アンケートによってこの点について明確にする必要があると思うが、とらえきれないのではないかと。

協力をいただくうえでは、市民の方々の意見をとにかくよく聞くことが不可欠であ

り、グループヒアリングが大変重要になってくる。しかし、蒲都市8万人の市民がいる中で、3箇所を実施ということだが、大きすぎるのではないか。ただし、やり方によってはより多くの地区の方々に集まっていただき、多くのグループを編成するやり方も可能だと思っている。

蒲都市は東西に長いが、一方で山間地にも人口が張り付いている。この地域の意見もしっかり聞かないといけないが、このサンプル数で果たして十分なのか。今回の値は、蒲都市全体の値だが、地区ごとの値がほしい。また、高齢者、非高齢者、免許の有無ごとなどを知る必要があり、これに耐えうるデータが必要である。

アンケートの中身について、財政負担について意識を問うことは重要だが、蒲都市だけの額しか出さないのは正確な、あるいは客観的な判断をさせるには厳しい。他の施策への投入額や、他市町村の投入額など判断材料を与えるべき。そうしなければ信頼性がないのではないか。

問4以降に関しては、これから導入しようとするべき新しいシステムに関しての設問がほとんどない。これから地域の方々と一緒になってやっていくということをここで出す必要があるのではないか。

そういう意味で鑑文は非常に重要である。見たときに答えようかなと思っていたらどうか。これから新しいものを皆さんと一緒に創っていくという期待感が必要。これを見るとそういうことが全然無い。地域の方と一緒にいい暮らしを描いていこう、そのために公共交通が必要です。そのために皆さんどうしますか、一緒に考えませんかというような部分を足す必要があるのではないか。

問5について、この設問では利用すると記入しても実際に走らせた乗らないパターンの典型的な例。もっと具体的に、本当に乗るのか、乗らないのかを調べるような設問にしなければ同じことの繰り返しになってしまう。

(事務局)

- ・ 多々いただいたのですぐに意見について回答できないが、大変貴重なご意見をいただいたので、今回は案として出させていただいているので、十分よりよい形の調査にしていきたい。

(委員)

- ・ 結局市民の方々に答えていただくことになるので、時間も限られているが、確認していただき、意見をいただく必要がある。

(事務局)

- ・ 市民の代表の方もお見えですのもしここでご意見いただければお伺いしたい。また、当日配布の資料ですので、今後まだ実施していくまでに時間があるので、今後もご意見等いただければと思っている。

(委員)

- ・ バス路線の維持については設問があるが、鉄道については聞いていないので鉄道についても加えて欲しい。名鉄西尾・蒲郡線については沿線市だけでなく、愛知県も補助金を出しているのでは是非聞いていただきたい。

ウ 夏休み小学生50円バスの実施について

- ・ 事務局より、夏休み小学生50円バスの実施について、資料6に基づいて説明が行われ、全会一致で可決された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 子ども運賃を安くし、セットで親がついてくることを期待するということで、これを気に両親にもバスを利用してもらうよい機会だと思う。
一方で、効果を把握し、次に繋げていくことが必要。
そもそも、これは地域公共交通会議の議決事項なのか。

(事務局)

- ・ コミュニティバスを含めて実施する事業のため、コミュニティバスを持っているところについては、それぞれの会議の議決が必要。子どもについては、議決までは必要ないかもしれないが、こういった取り組みに市が参加するというので、地域公共交通会議の皆様方のご承認が必要だと考え、ご提案した。

(3) その他

- ・ 愛知県交通対策課より平成25年度エコモビリティライフ推進表彰について説明があった。
- ・ 中部運輸局愛知運輸支局より地域協働事業費補助金についての説明があった。

(委 員)

- ・ グループヒアリング等を進めていくことになるが、地域の方々の協力が欠かせない。地域の方々の協力がいただけるのか、地域の代表の方も来ていただいているせっかくの場なのでお聞かせ願いたい。

(委 員)

- ・ いわゆる買い物難民など現実に起きている。避けることは出来ない喫緊の課題だと思うので、難しいとは思いますが、乗り越えて公共交通など充実させていかなければならない。

(委 員)

- ・ 促進委員会というのを立ち上げて、市のほうにお願いする組織は出来ている。アンケートの結果について、病院や市役所も大切だが、利用価値を高めるという点に関しては、買い物についても重要だが非常に難しい問題である。これからの結果次第で組織的には出来上がっているので進めていきたいと考えている。

(委 員)

- ・ グループヒアリングについてうまくできるかどうかということだと思うが、広報で市民を募集して募るということになっているが、手を上げて参加する方は否定的な意見を持っている方が集まることが非常に多いと思っている。意思を持って設定することは問題だが、うまくやれるのか心配である。地域の代表が声をかけると役員が集まるだけになるので、それもどうかと思う。そのあたりが一番難しいが、どのようにやるか疑問に思っている。
- ・ 事務局より、次回の会議の開催について連絡を行い会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名押印する。

蒲郡市地域公共交通会議委員

印

蒲郡市地域公共交通会議委員

印
